

答 申 書

行政改革の推進について

平成 26 年 1 月 29 日

日南町行政改革推進委員会

平成 26 年 1 月 29 日

日南町長 増原 聡 様

日南町行政改革推進委員会

会長 近藤 仁志



行政改革の推進について（答申）

平成 25 年 7 月 29 日付、貴職より本委員会に諮問を受けました行政改革の推進についてのうち「情報及び町の魅力発信の方法について」、「地域への誇り・自信に繋がる施策の実行について」、「環境保全及び循環型施策の今後の展開について」の 3 項目について慎重審議し、ここに最終答申としてまとめましたので提言します。

1. はじめに

日南町は、平成 13 年度からの国の行財政改革に伴う普通交付税の大幅削減により、極めて厳しい財政状況を迎えました。そして自己決定、自己責任において抜本的な見直しが進められる中、平成の市町村合併論議を経て、平成 15 年 2 月に単独自立の道を選択しました。

このような状況を経て、平成 16 年度から 20 年度までの 5 ヶ年間を行政改革実施期間、その内 18 年度までの 3 年間は重点期間とし、この間実施計画のほとんどに取り組み、健全な財政運営の面で一定の成果を上げてこられました。

78 項目に及ぶ実施期間の検証は、平成 23 年 12 月 7 日提出の答申をもって一応の区切りとし、24 年度はこの取りまとめの検証とともに、将来を見据えた、短期（2 年以内）、中期（3～5 年）、長期（5～10 年）での取り組むべき内容をまとめ、提言書として提出したところです。

本年度は、町より諮問のあった個別 3 項目について計 5 回の委員会を開催し、ここに答申としてまとめました。それぞれの審議結果に課題がないとは言いきれませんが、町民目線で審議して出した結果であるということの重みをご理解いただき、前向きに取り組まれることを期待いたします。

2. 情報及び町の魅力発信の方法について

平成 15 年度に行われた日南町タウンズネット整備事業により、町内全域に情報通信基盤が整備され、ブロードバンド化が図られました。これらを利用したサービスは住民生活に欠かせない情報手段となっています。

現在日南町で取り組んでおられる主な情報発信方法は、防災無線、広報誌「広報にちなん」、ケーブルテレビ「ちゃんねる日南」、日南町ホームページ、メールマガジン「にちなん日和」等があり、日々情報提供に努力されているところです。情報技術は日進月歩であり、常にアンテナを張っておかなければなりません。日南町の情報をどのように伝えていくのか、常に考えておく必要があります。

このような状況の中、今後可能性のある媒体として SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用が挙げられます。「ツイッター」や「フェイスブック」といった、コミュニティ型のインターネットサービスを利用する人は年々増加しており、スマートフォンやタブレット端末などの普及により、若い世代を中心に急速に広まっています。

SNS の最大の利点はその拡散性であり、より身近な情報をリアルタイムに伝えられるところが魅力です。そして、自分の関心の高い情報を得ることに加え、双方向の機能を持っていることから、相互交流を通じた「人と人とのつながり」を享受することができます。SNS を利用する自治体も増えつつあり、東日本大震災でも SNS の情報が役に立ったということなどからも、災害時での活用も効果的であると考えます。

その反面、管理に関する新たな体制づくりや業務量の増加など、多くの課題も考えられることから、リスクや課題を検証した上で、活用の方法についてできるところから前向きに検討していただくよう希望します。

3. 地域への誇り・自信に繋がる施策の実行について

これからの日南町を支えていく若者や子供たちにはいかに地域に自信や誇りをもってもらうのが大きな課題であり、まちを支える「人づくり」はその基本となります。各地域ではまちづくり協議会を中心に特色を生かした事業を展開されていますが、地域に対して関心が少ない人がいるのも現状です。地元の人が地元の良さを知ることによって地元を PR することができ、その理解があってこそ誇りや自信に繋がるものと考えます。

一方、都市部では田舎の原風景やゆっくりとした時間に憧れる人も多く、私達が普段見慣れている景色やありふれた日常は未知の可能性を秘めています。しかし、町民の多くはそれに気付いていなかったり、認識が薄いようにも感じます。人に来てもらうということは一つの手段であり、魅力発信を上手に行うことで更なる効果も期待できます。

近年農林業研修生などを中心に、多くの方が町内に転入されていますが、転入者は自分の住んでいたまちとの比較において新鮮な視点を持っているため、その視点を大事に

することが大切です。地域の中にはIターンで若い人が入ってきたことにより、地元の若者が元気になったというところもあり、地域の活性化にとって転入者は重要な役割を担っています。

昨年発行された移住定住パンフレット「ぼちぼち田舎暮らし にちなん町」は必要な情報の他、転入者の意見や感想なども記載されており、非常にわかりやすくできています。今後もこのようなパンフレットを作成され、幅広く周知されることを希望します。

また、町内では各地域において特産品の開発、販売等盛んに行われていますが、個々での活動によるところが大きく、日南町のブランド化を考えていく上では、地域が連携し各種団体と協力しながら、総合的かつ一体的に行なっていくことが必要です。単品での売込みだけでは日南町の顔にはならないため、どこへ行ったら何が買え何があるのかという、情報発信の拠点的なところも必要と考えます。

「食のバザール」の開催により、各種団体の横のつながりもできつつあることから、皆が一丸となった「チーム日南」による6次産業化を視野に入れた商品開発や販売、日南町の売込み、情報の共有化など、一貫した取り組みが図られることを期待するところです。

また、自治体の中にはマスコットキャラクターなどを活用し効果を上げているところもあり、町の宣伝効果を高め展開しやすくするためにも検討されることを希望します。

4. 環境保全及び循環型施策の今後の展開について

21世紀は環境の世紀であり、日南町の自然環境は町民の誇りです。今後も日南町の自然環境を生かした太陽光、小水力、木質バイオマスなどの再生可能なエネルギーを活用した施策を推進していかれることを希望します。

町土の約9割は森林であり、日南町の環境を考えていく上で森林の適正な管理はその基本になるものと考えます。二酸化炭素の吸収や地球温暖化対策が活用できる大きな資源でもあり、間伐の必要性や山の魅力、山本来の機能や能力を最大限に生かす取り組みを、現在行っているJ-VERや持ち出し支援、間伐助成などを活用しながら引き続き推進されることを望みます。

森林の育成は数十年単位という長い期間で見なければならず、人材の確保、後継者の育成は最も重要な課題です。担い手の確保や育成が進み、多様な年齢層によって効率的かつ効果的に森林づくりが推進されることが理想です。林業研修生制度の導入など、新たに多くの方が林業に携わっていますが、受け入れ体制の充実等今後も底辺を広げていくことが重要です。昨今は林業高性能機械の導入などにより林業のイメージも変化し、若い人が林業に興味を持ちやすくなっていることから、今後も機械化等、林業振興に向けた取り組みが必要であると思われます。この他、今後の課題として、森林保護の観点や森林施策、公共事業を推進していく上で不在村地主の問題が懸念されます。

一方、町内の河川環境も近年大きく変化しています。合併浄化槽や農業集落排水の普及、川にゴミを捨てなくなるなど、川の水そのものは以前より格段にきれいになっていますが、川の形態の変化や水量の減少など、生物が住みにくくなっている現状が見受けられます。さまざまな要因があるものと思われませんが、人間が便利さを追求してきた結果でもあり、本来あるべき姿に近づけ生態系を整えていくことが必要です。川魚の放流や、工事の際には環境に配慮したものの配置、工法の検討を行なうなど、関係機関と連携した取り組みが行われるよう望みます。

5. おわりに

豊かな地域社会を実現するためには、地域を支える力が必要であり、その源は『人』です。すべての世代が自信と誇りを持てる日南町にするため、今後も町民と行政が一体となったまちづくりの推進にあたっていただきたいと願います。一方、町民も行政と協働してまちづくりを行なっていく上で意識改革が求められていることから、町民に対しても更なるご理解とご協力をお願いするものです。

町は本委員会の意見を最大限に尊重していただき、できるところから前向きにかつ誠実に対応していただくよう強く望むものであります。日南町の将来にわたる積極的な取り組みを期待いたします。